

低炭素社会・省エネ・安全のトータルソリューションを目指して

林 正博 (はやし まさひろ) (株)リケン環境システム 営業本部 担当課長

要約 電熱線 PYROMAX (パイロマックス) を開発・販売開始してから 50 年が過ぎた。今まで PYROMAX や PYRORIK (工業炉) など熱エンジニアリング製品は株式会社リケンで営業を行っていたが、2006 年 7 月より、同じく (株)リケンの一部門であった EMC 事業と統合し、株式会社リケン環境システムとして新たなスタートを切った。リケンからリケン環境システムへの流れ、現在のリケン環境システムの取扱製品について説明したい。

1. はじめに

昨年 9 月のリーマンブラザーズの破綻をきっかけに始まった世界的な大不況はまもなく 1 年が過ぎる。しかし必ずしも悲観材料ばかりではない。例えば熱エンジニアリング事業に関しては、CO₂ 排出量削減という地球規模の課題に対処すべく全世界で太陽光発電や風力発電など再生可能な新エネルギー利用の技術開発とその普及に各企業の活動が活発化しており、新しいビジネスチャンスが生まれている。当社としても、こうしたニーズに応える商品、製品を世の中に提供する事でビジネスを拡大して行くと共に地球環境保全の重要な一翼を担うという気概で取り組んで行きたい。「リケン環境システム」が取り組んでいる事業・製品及びその歴史について少しでも皆様を知っていただきたいと思う。

2. わが社の歴史

(1) 「PYROMAX」の開発から販売開始まで

わが社が金属ヒーター「PYROMAX」の製造販売を開始したのは 1958 年 (昭和 33 年) である。この当時は理研ピストンリング工業株式会社 (現株式会社リケン) の一部門であった。

この時からわが社は熱エンジニアリング業界へ参入した。

ちなみに理研ピストンリング工業はその名前が示す通り、理化学研究所 (現：独立行政法人理化学研究所) の発明を企業化する目的で 1927 年 (昭和 2 年) に設立

され (当時の社名は理化学興業)、実用ピストンリングを日本で初めて製造開始した会社である。

何故、ピストンリングの製造会社がヒーターを造り始めたのかということ、1956 年に精密鑄造研究所を設置し、各種金属の溶解、鑄造に関する試験、研究を始めた。研究テーマとして「延性高アルミニウム鉄合金の製造法」による特殊合金の研究が行われた。

この研究の中で生まれたのが「PYROMAX」である (写真 1)。

この当時、従来の電熱線と比較して ① 比抵抗値が高い ② 温度係数が負の為、局部加熱が防げる ③ 圧延・線引きといった加工が容易、といった特徴があり、電熱線としても、機械的な性質としても優れたヒーターである。わが社は 1960 年に本格的な量産を開始し、この「PYROMAX」を電気炉メーカー、家電メーカーを中心に幅広く販売した。

1967 年には八幡製鉄 (現新日本製鐵) の電磁鋼板処

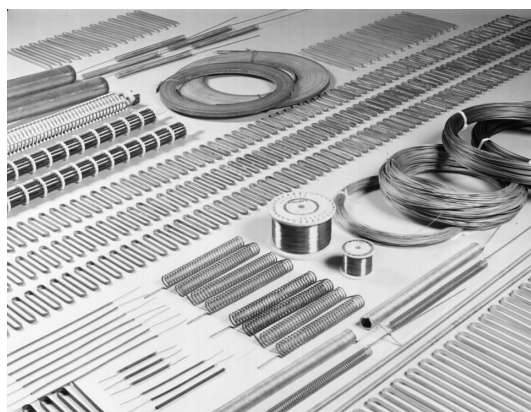


写真 1 「PYROMAX」